月刊

「勉強が苦手」というのは、本人もつらい思いをしています。 「勉強をやらせる」よりもまず、「子どもの状況を理解してやる」 ことが、その悩みの解決策になるはずです。

来年1月まで毎月読み物としてお届けします。

バックナンバーは毎月ブログに掲載いたしています。

ぜひ、もれなくチェックください!

http://supports.mo-blog.jp/blog/

VOL.1 「やる気」とは何か?

VOL.2 考え方にも個性がある!?

VOL.3 「見えてない」から出来ない!?



保護者・教育関係者対象の セミナーを開催いたします!

今月のテーマ

発行:個別指導・学習塾 サポーツ京田辺 新田辺駅東側サンフレッシュ2階 0774-65-1316

教育関係者対象

「勉強が嫌い」「やる気がない」と言われる状態とは、それは、「気持ちがない」のではなく、実は、「やる気があるとみなされる行動ができない」という、決して"本人の気 持ち次第"ではないことの方が多いのです。 それを理解してあげるためには、指導する側の大人が、 子どもの状態を理解してあげることが求められます。そ のための最先端知識を、専門家を招いて学ぶセミナー を開催いたします。

主催:サポーツ京田辺

2014

会場:京田辺商工会館CIKビル 4階キララホール



定員:140名(原則事前申込)

(京都府商工会連合会の補助金事業として実施します。)



著書:「子どもはことばをからだで覚える」「ケータイをもったサル」「ヒ トはなぜ子育てに悩むのか!「ヒトはいかにしてことばを獲得したか!「天 才はなぜ生まれるか! 「団塊のジジババが日本をダメにする!等



門家である米国国家資格ドクターオブオプトメトリーを取得 現在、視機能トレーニングセンターJoyVision代表として、子どもたちやス

ポーツ選手の視覚機能検査とトレーニングに携わり、県立視覚支援学校の 北出勝也氏 著書:「学ぶことが大好きになるビジョントレーニング」「発達障害の子 のビジョントレーニング | 等



育脳インストラクター 中島みちる氏

大手進学塾にて国語の講師を勤め、生徒指導歴は20年を超える。在職時代 から、'やる気'や'自己肯定感の差'は未就学時期の過ごし方に大きく起因す ると考え、子育て子育ち支援事業を始める。林成之式育脳メソッドを実践 普及しながら、子ども・母親・親子向けの様々なイベントを企画運営。

詳細はこちら⇒http://www4.ocn.ne.jp/~supports/pdf/seminar.pdf

<お申込方法>

「氏名・職業(所属団体など)・住所・電話番号・FAX・e-mail」をmail・FAX・TELでお申込ください。 お申込先:サポーツ京田辺 TEL&FAX0774-65-1316 supports@triton.ocn.ne.jp

本当に「知識がない」からできないの…??情報が多すぎて混乱しているのでは?

サルや小鳥の群れに、天敵が近づいてきたとき、群れ全体が"大騒ぎ"している様子をどこかで見覚えがないでしょうか?これを「mobbing(モビング)」といいます。

「敵が現れたのに、なぜ、大騒ぎするのか?」 「静かに身を隠した方が安全なはずなのに、あえて敵に居場所を知らせるようなことをするのか?」 これは、動物学者にとっても"大きな謎"だったそうです。

それが近年、興味深い事実が明らかになりました。

「天敵にとって、格好の獲物が眼前にたくさんありすぎると、的がしぼれなくなっ、 て、捕まえることが容易でなくなり、あげくの果てには、そもそも狩りをしようという"やる気"すら失ってしまう」のです。

大量の獲物を目の前にしながら、モビングされると、すごすごと退散してしまう。 このような"やる気の喪失"が脳の中の活動にどう影響しているのでしょうか?

色彩や動きが派手でより目を引くものを見たときの方が、脳の活動が活性化しそうなものですが、むしろ、あまりに注意を引くものが多すぎると、脳はそれを処理しきれなくなって、活動が抑制されてしまうことがわかりました。 つまり、情報量が処理能力をはるかに超えると、情報処理自体をシャットダウンするのです。

引用文献:「ゲームキャラしか愛せない脳」正高信男

<トピック>赤ちゃんを泣き止ます方法!?

パチンコ店のような、騒音まみれの場所に連れて行くと、 赤ちゃんはどうすると思いますか? 火をつけて泣きわめきそうに思いますが、実際には、あっ という間に寝てしまいます。

これは実際に、京大霊長類研究所の正高教授がTV番組の取材で「予言」し、ボランティアの赤ちゃんで実験したところ、そのとおりになったそうです。(寝かしつけにパチンコが有効とは推奨できないので、放送はボツになったそうですが。。。)

それはまさに、過剰な外界からの刺激にさらされた赤ちゃんは感覚受容をシャットアウトしたということなのです。 しかもそれはいわば、「覚醒する」という生き物としての根源的な"やる気"を失ったのです。

普通、親が子どもを寝かしつけようとするとき、静かに静かにしますが、そうすると、情報を漏らさぬよう、子どもの感覚能力は冴え渡らせているのかもしれません。。。



授業中に寝てしまうのも、 まさにシャットダウン!? 確かに、寝ても寝ても、 楽しているどころか、 疲労感が募りますよね。 一般に「勉強が苦手」「授業についていけ、 てない」となると、「もっと勉強しなさい!」 と勉強量を増やすことを求められます。

> 学校などの"補習"などもその典型です。結局、 問題演習をやらされますよね。

もちろん、まさにサボっていて、演習量不足 だった子は、それで補われるのですが・・・

「理解できなかった子」にとっては、訳のわからないまま、誘導されるがままに回答を書かされるような状況を繰り返すことにまりがちです。



結果的に、「考えずに丸暗記する。」という 思考回路が強化され、「理解している人」 にとっては、1つの単元であることも、「丸 暗記の人」は、10個の別々の解法パター ンと認識するわけですから、当然「忘れて しまう」のは当然です。

「勉強が苦手」を脱出する学習とは、いかに 「情報量を減らすか?」が重要なのです。

かといって、「基礎からやり直す!」と初歩からやり直すだけでは、これまで学年のテストなどからは遅れ続けることになります。

例えばテストで、これまで20点だった子が、「40点を目指す」ということであれば、 テスト範囲全てを勉強して、マスターしきれないよりも、半分捨てて、できることに 注力した方が良いのです。

しかし、それは、「できる単元のに絞る」では、半分もとれないはずです。そういった 「注力の仕方」が、個別指導における"指導者の腕"の見せ所なのです。

他の塾でうまくいかなかった方や 不登校などでお悩みの方など、 一度、お気軽にご相談ください。 発達支援から受験指導まで 「勉強を教える」のではなく、"勉強の仕方"を教えます

間別指導 サポーツ京田辺 学習塾

0774-65-1316 新田辺東側サンフレッシュ2階

新田辺果側サンフレッシュン

